練馬における農業ビジネス

～練馬の農業の歴史とこれから～

練馬区生産者
渡戸秀行

2019年11月30日

渡戸　秀行

Mr. Hideyuki Watado

- ▶1966年生まれ
- ▶1.3haの農地を耕作
- ▶旬の野菜を年間３０種類 栽培
- ▶江戸東京野菜を１０種類 栽培
- ▶畑の販売所で野菜を販売
- ▶趣味：ギター

都市農業のはじまり

都市化

～昭和時代～

- 都市計画法 公布（1968年）
- 東京都人口 1,125万人（1968年）
- 農地と都市が混在していた
- 昭和50年の練馬区農地面積　746ha

～平成時代～

- 都市農業振興基本法 公布（2015年）
- 東京都人口 1,394万人（2015年）
- 都市化が進み、高層ビルが立ち並ぶ
- 平成28年の練馬区農地面積　216ha

※2016（平成28）年の練馬区航空写真

練馬区の農地

※練馬区　とっておきの風景の写真を使用

練馬の農業。何を作ってる？

農業産出額

＜特別区＞

▶野菜：31.3億円

▶果実：2.9億円

▶花き：2.8億円

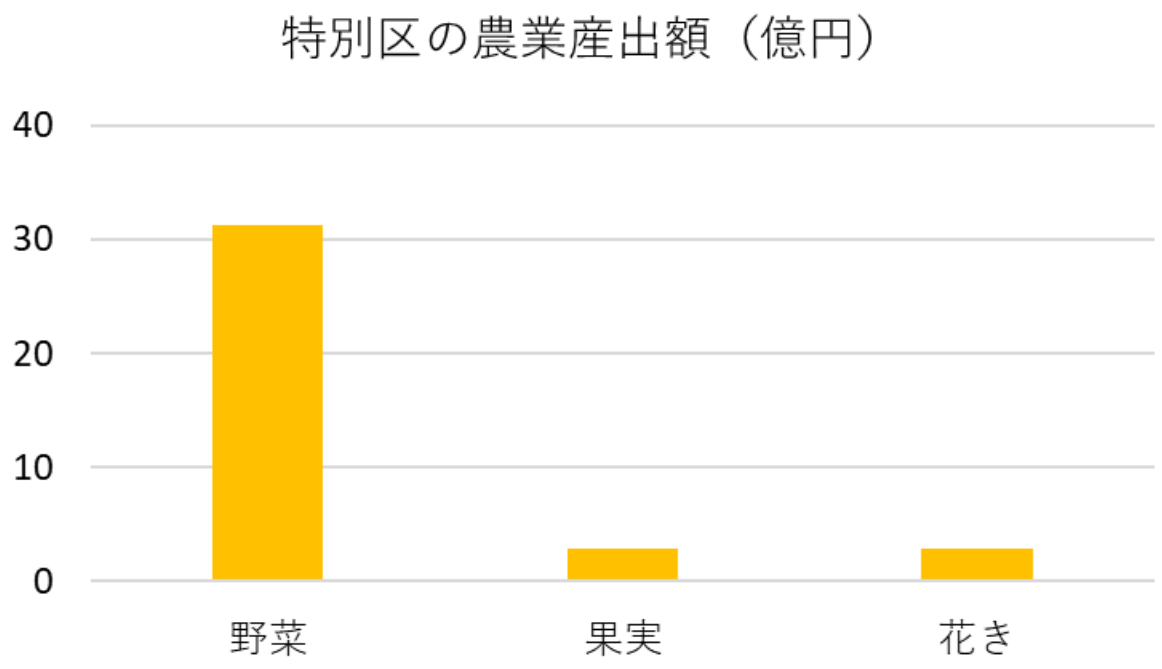
＜東京都＞

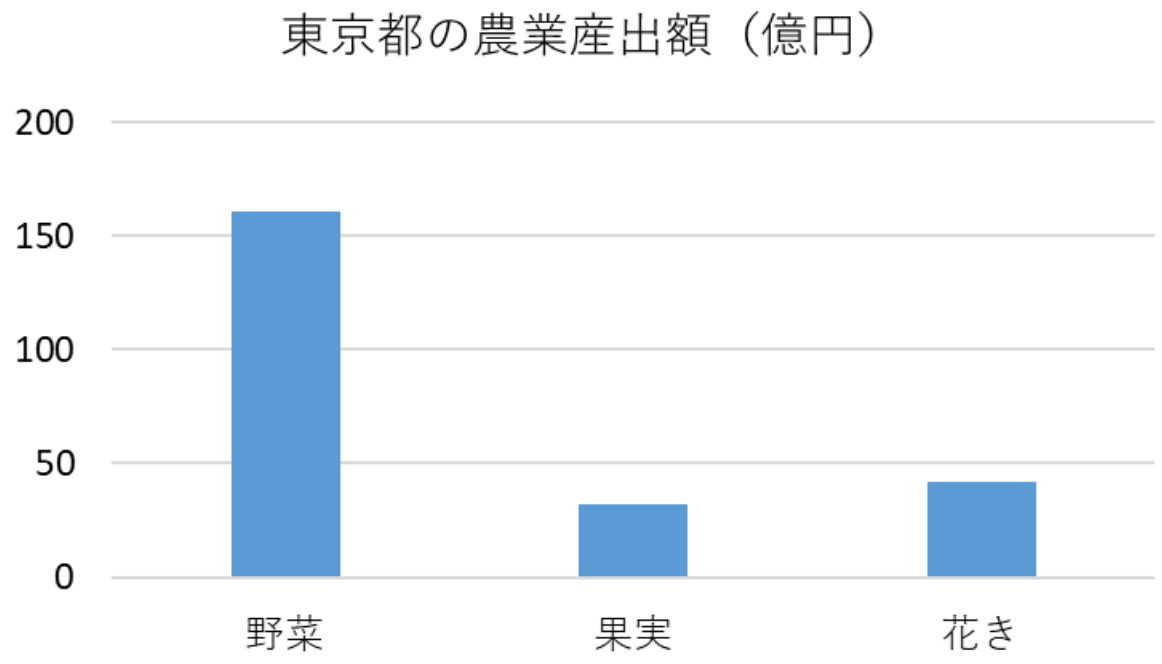
▶野菜：161億円

▶果実：32億円

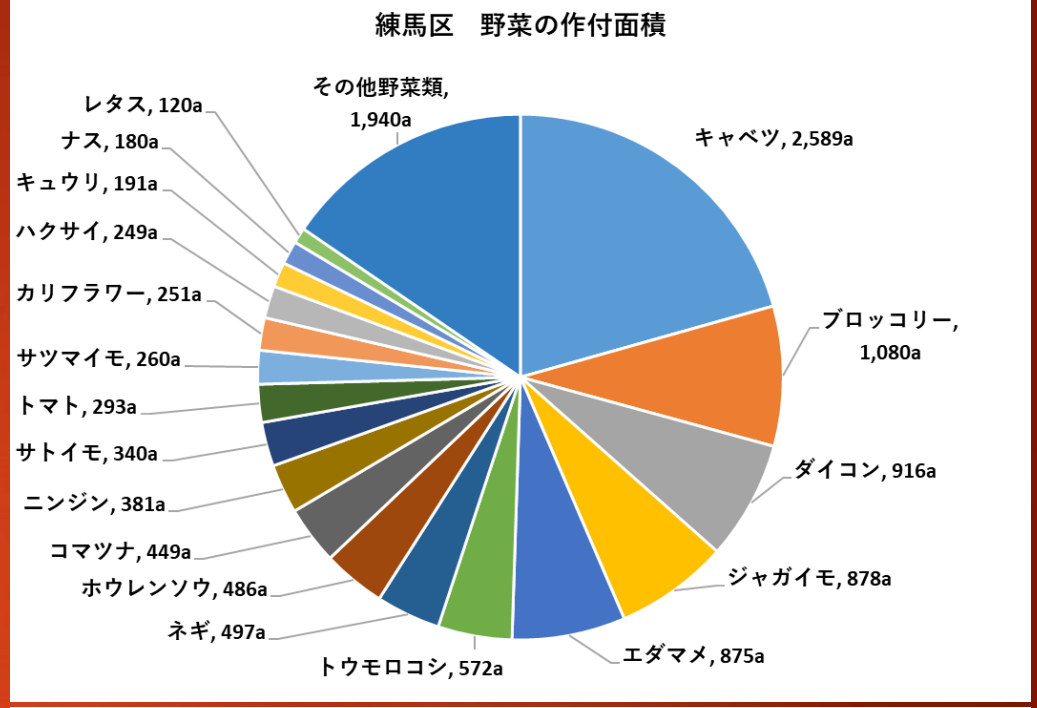
▶花き：42億円

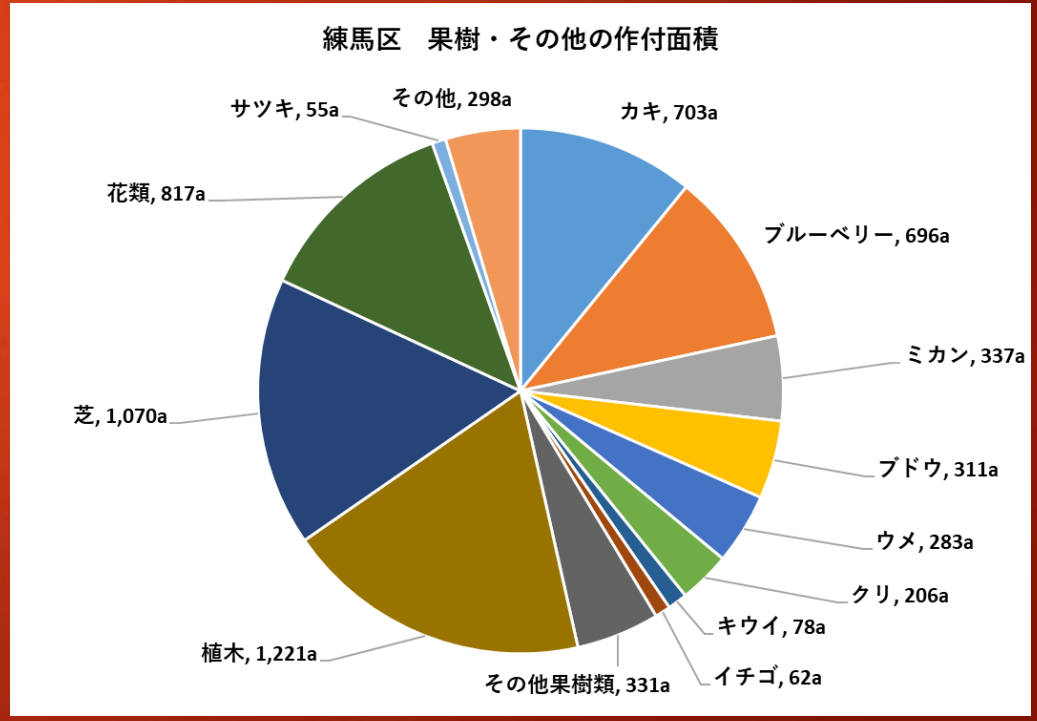
※農林水産省　平成29年市町村別農業産出額（推計）のデータを使用





練馬区の農産物


練馬区　野菜の作付面積
キャベツ, 2,589a
ブロッコリー, 1,080a
ダイコン, 916a
ジャガイモ, 878a
エダマメ, 875a
トウモロコシ, 572a
ネギ, 497a
ホウレンソウ, 486a
コマツナ, 449a
ニンジン, 381a
サトイモ, 340a
トマト, 293a
サツマイモ, 260a
カリフラワー, 251a
ハクサイ, 249a
キュウリ, 191a
ナス, 180a
レタス, 120a
その他野菜類, 1,940a


練馬区　果樹・その他の作付面積
カキ, 703a
ブルーベリー, 696a
ミカン, 337a
ブドウ, 311a
ウメ, 283a
クリ, 206a
キウイ, 78a
イチゴ, 62a
その他果樹類, 331a
植木, 1,221a
芝, 1,070a
花類, 817a
サツキ, 55a
その他, 298a

多様な農産物の販売形態

卸売市場

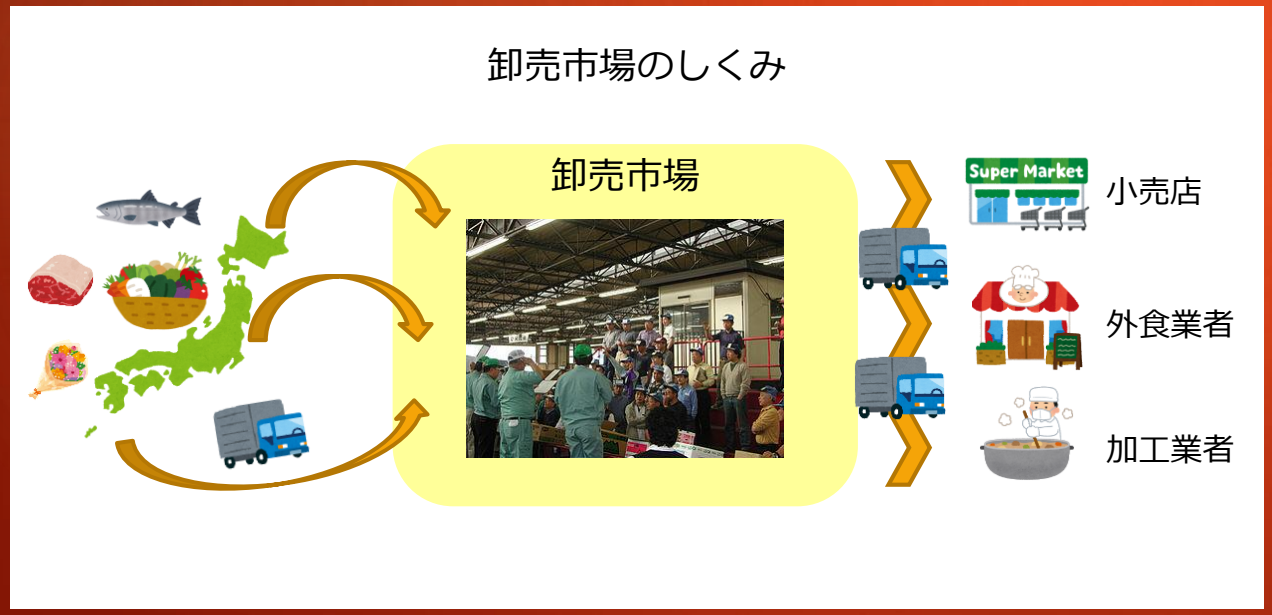
全国から集まった青果物（野菜、果物）、水産物、肉、花を取引し、小売店（八百屋、スーパーなど）、外食事業者（レストランなど）、加工業者へ販売する拠点。

＜メリット＞

- 生産した品目を大量に出荷できる

＜デメリット＞

- 産地間競争による価格競争を強いられる



庭先販売型直売所

農業者の農場や自宅の庭先の青果物の販売所。小屋や自動販売機で販売。

＜メリット＞

- 輸送費などの出荷コストがかからない

＜デメリット＞

- 多品目栽培になり、農作業の農閑期がない

※練馬区　ねりまの農業の写真を使用

JA直売所

農業協同組合（JA）が開設している直売所。様々な農業者が農産物を持ち込み、JAが農産物を販売する。委託販売方式を採用する直売所が多く、売れ残った農産物は、農業者が回収し、いつも新鮮な農産物が並ぶ。

＜メリット＞

- 庭先で販売するよりも集客力があり、効率的である

＜デメリット＞

- 季節により出荷品目が集中し価格競争を強いられる

※練馬区　ねりまの農業の写真を使用

※練馬区　ねりまの農業の写真を使用

レストラン・飲食店

　レストラン・飲食店に、直接、農業者が農産物を販売。シェフは、獲れたての新鮮な農産物を使って料理をすることができる。

＜メリット＞

- 飲食店は、地元産食材を使用していることでPRになる

＜デメリット＞

- 多品目を栽培することになり、農作業の農閑期がない

消費者にとってのメリット

都市農業には、多様な販売形態がある

↓

鮮度・価格・味・こだわり・買い方
比較して購入できる

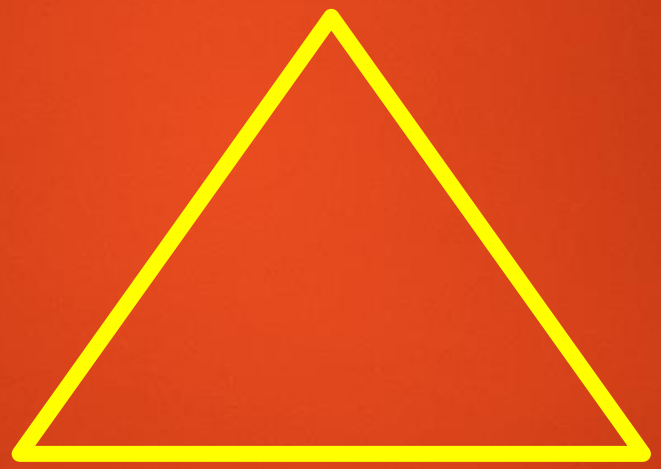
これからの練馬の都市農業はどうなる？

都市農業の価値とは？

- 農業が本来持っている力とは？
- 農業に可能性はあるのか？
- 農業の魅力を発信できるか？
- 農業でコミュニティーを築けるか？
- 災害の時に農地を何ができる？

都市農業の未来を語ろう

農地を核とした
農業ビジネスの展開



販売チャネルと
消費者選択の自由

加工による新たな
付加価値の創造

Thank you for your attention.

Terima kasih atas perhatian Anda

경청 해 주셔서 감사합니다

ご清聴ありがとうございました。